



全力を尽くした死闘も届かず2位
悔しさをチームの成長の糧に

SuperTaikyū
Japanese Endurance Race

ENEOS スーパー耐久シリーズ 2025 Empowered by BRIDGESTONE
第4戦 SUGO スーパー耐久4時間レース

2025年7月5日(土)～7月6日(日) スポーツランドSUGO(宮城県)
入場者数: 7月5日: 3,000人 7月6日: 3,900人

■ PRACTICE スポーツ走行 / STMO 専有走行

7月3日(木)～4日(金)

天候: 晴れ/曇り/雨 路面: ドライ～ウエット

第3戦富士24時間レースでは悲願の優勝を飾り、目標をひとつ達成。シリーズランキングでも2位につけたTKRIは、後半戦の幕開けとなる第4戦を迎えた。舞台は宮城県のスポーツランドSUGO。TKRIにとってはこれまでのスーパー耐久の参戦のなかでも験の良いコースだ。

そんな一戦のレースウィークは、7月3日(木)にスタートした。前週スパ・フランコルシャンを走っていた片岡龍也、SUPER GTで表彰台を獲得した中山友貴と奥本隼士のふたりは、その疲れも少なくDAISUKEと合流。スポーツ走行から週末に向けた作業を進めていった。1回目は片岡、2回目はDAISUKE、3回目は奥本とDAISUKEがドライブした。

明けて7月4日(金)は1時間ずつの専有走行が行われ、1回目は片岡、DAISUKE、中山が走行。2回目は4人が乗車したが、途中から激しい雨が降り出すことになった。1回目は2番手、2回目は3番手という順位だ。「クルマのバランスは良いのですが、60kgのウエイトの重さがありますね。特に問題があるわけではないですが、走行スケジュールが短すぎるので、あまりいろいろなことが試すことができていません」と片岡は1日半の走行を振り返った。「前戦同様、ノーミス、ノーペナルティで戦いやすいクルマにはなっていると思います」と決勝に向けたクルマづくりを進めてきたと片岡は語った。





QUALIFY 公式予選

7月6日(日)
天候:晴れ 路面:ドライ

7月5日(土)はTKRIが参加するグループ1の走行はなく、7月6日(日)によいよ公式予選を迎えた。直前の走行会で発生したオイル漏れのため25分遅れで始まった公式予選は、今回はスーパー耐久では珍しいノックアウト形式で争われた。

まずはQ1に片岡が出走すると、晴天のもと1分21秒210を記録し、2番手と0.014差でトップにつけQ2のDAISUKEに繋いだ。

続くQ2では、DAISUKEが2台のみが出走するなか、果敢にアタックを続けるも1分23秒527というベストタイムで2番手に。「コンマ7秒足りませんでしたね」とDAISUKEが言うようにポール獲得はなかったが、フロントロウを獲得した。

C/Dドライバー予選では、奥本と中山が走行。午後に行われる決勝レースを見据えて周回を重ね、公式予選を締めくくった。



RACE 決勝レース

7月6日(日)
天候:晴れ 路面:ドライ



曇り空ながら、気温30度を超える蒸し暑さのなか午後0時35分にフォーメーションラップが始まった決勝レース。TKRI松永建設AMG GT3のスタートドライバーを務めたのは片岡だ。スタート直後、ポールポジションの#777アストンマーティンにわずかに並びかけたものの抜くには至らず、序盤は前に#777アストンマーティン、やや離れて後方に#31RCFを従えての走行を続けることになった。

片岡はずっと後方に#31RCFにつかれながらの走行を強いられることになるが、ポジションは譲ることなく周回。44周を終えてピットインすると中山に繋いだ。

今回、TKRI松永建設AMG GT3の戦略は3回のピットストップでの4スティント。ST-X勢のライバルは、序盤トップを走った#777アストンマーティンがプロがスタートしてAドライバーが中盤の長いスティントを担当、2ストップの3スティントが濃厚だった。TKRIと同じ戦略を採っているとみられる#31RCF、さらにTKRI松永建設AMG GT3は、中

山がペース良く86周までスティントを担当すると、DAISUKEに交代。DAISUKEが第3スティントを戦っていくことになった。

DAISUKEの後方からは、#31RCFがジワジワと接近。さらに中盤のスティントをAドライバーで繋いできた#777アストンマーティンは1周差がついていたが、若手に交代するとラップダウンを跳ね返すべく猛烈なペースで迫ってきた。

DAISUKEは暑さのなか、少しずつペースが下がってきたものの、ラップダウンもうまく使いながらなんとかポジションを譲るまいと走行を続けていく。専有走行の時点で、片岡を中心に決勝レースに強いクルマづくりを進めてきた成果が発揮され、DAISUKEはきっちりトップを守ったまま128周まで走りきり、最後のスティントを奥本に託した。ここでチームは、#777アストンマーティンをコース上で先行するべく二輪交換を実施した。

DAISUKEの頑張りを感じた奥本はピットアウトするとともに猛然とプッシュしていくが、後方からはラップダウンを解消した#777アストンマーティンが接近してくる。この時点でAドライバーが走行していたトップの#31RCFはもう一度ピットインが必要。実質的なトップ争いとなった。

奥本はラップダウンをうまく使いつつ、#777アストンマーティンを退けながら周回を重ねていった。ただ、二輪交換の影響かわずかなコースアウトの影響でエアロに変化が

あったためかペースは上がらない。残り18分というタイミングで入ったフルコースイエローの解除後、ふたたびバトルが勃発した。

奥本はなんとか粘りの走りが続けたが、残り6分のレインボーコーナーで、ラップダウンの処理にわずかに手間取り、続く馬の背でついにアウトから並びかけられた。奥本はなんとか防戦しようとSPコーナーでふたたび並びかけ、2台はわずかに接触。ただ、SPコーナー出口では#777アストンマーティンが先行することになった。

奥本は最後まで#777アストンマーティンを追ったが届かず、TKRI松永建設AMG GT3は2位でチェッカーを受けることになった。連勝を飾るチャンスを活かせなかった奥本は悔しさを隠さなかったが、奥本の将来に向けた経験になったことは間違いない。

以前のように、「上出来の2位」ではない2位。これを悔しがるチーム全員の表情がTKRIの成長を感じさせた。次戦、この悔しさを勝利に繋げるべくシーズン後半戦に臨む。





DRIVERS / DIRECTOR VOICE

ドライバー&監督コメント



DAISUKE DAISUKE

レースというものはいろいろなことがありますね。僕のスティントでは終盤スタミナ切れと言いますが、ペースが悪くなってしまったので、序盤のペースを保てていれば展開も違ったのではないかとこの反省点もあります。今回の悔しさをバネに次戦に臨みたいと思いますね。ただ今回、数秒の世界で優勝を争うことができたことはチームの成長だったと思いますし、さらに詰めていけばチャンピオンも狙えると思います。次戦は本当に大事な一戦ですからしっかり準備して臨みたいです。



片岡 龍也 TATSUYA KATAOKA

DAISUKE 選手のスティントでペースが良かったので、その時点で優勝が意識できましたがピットで前に出られると抜くのは難しいので二輪交換を行いました。ただ奥本選手が乗る直前のコースアウトでエアロが破損しており曲がりづらくなったマシンに苦労しながらもトップを守っていましたが、まだキャリアの浅い奥本選手自身の経験の足りなさが多少見えたレース展開でした。ただ、それを分かって育成も含めて起用していますから、今回のことでまた強くなってもらえればと思います。



奥本 隼士 SYUNJI OKUMOTO

悔しいです。それ以外ないですね。自分のスティントは最初から最後まで全力で走ったのですが、全体的にペースが悪かったこともありますし、最終コーナーがとにかく苦しくて、毎週詰められて1コーナーで並ばれる展開でした。なんとかしのいでいましたが、レインボーコーナーでのラップダウンの処理が相手に隙を与えてしまうもので、結果抜かれてしまいました。自分の実力不足ですし、責任を感じています。しっかりとレースを見直して、また精進したいと思います。



中山 友貴 YUHKI NAKAYAMA

2位で悔しさはありますが、ウエイトの差を考えると、777号車の方がスピードで分があったと思っています。その点は仕方ないですね。自分のスティントではロスを最小限にしつつ、頑張って良いペースが保てたと思っています。最終スティントの奥本選手の結果については、奥本選手がもっと成長できるパートだったと思いますし、今後一緒に伸びていければと思います。今回2位でポイントも多く獲れましたし、次のオートポリスではまた力強いレースができるよう頑張りたいですね。

河野 高男 監督 TAKAO KOHNO

みんなが頑張ってくれたレースでした。奥本選手のスティントで二輪交換を行いました。四輪だと前にいけるか微妙な位置でした。その分辛くなってしまいましたが、頑張ってくれたと思います。結果として2位でしたが、今回はポイントは獲れてウエイトはつかない順位なので、その点はポジティブにとらえたいですね。チーム全体が悔しさをもってくれていますが、2位で悔しいと思えるチームは良いチームだと思います。この2位が最終戦に効いてくれれば良いのではないのでしょうか。





SUPER TAIKYU 2025 ROUND.4 RESULT

リザルト



ENEOS スーパー耐久シリーズ2025 Empowered by BRIDGESTONE 第4戦 SUGO SUGO SUPER TAIKYU 4Hours Race 2025.7.5-6



No. - 27

BRIDGESTONE ENEOS ENEOS スーパー耐久シリーズ2025 Empowered by BRIDGESTONE 第4戦 SUGOスーパー耐久4時間レース
開催レース:もてぎ/菅生 VITA シリーズ第2戦 主催:株式会社菅生/菅生レーシングスポーツクラブ(SRSC)
公認:一般社団法人日本自動車連盟(JAF) 後援:公益社団法人宮城県観光連盟/村田町/名取市/築田町/大河原町/蔵王町/川崎町/河北新報社/岩沼市観光協会

主催:株式会社菅生/菅生レーシングスポーツクラブ(SRSC)

ENEOS スーパー耐久シリーズ2025 Empowered by BRIDGESTONE 第4戦 SUGOスーパー耐久4時間レース Gr-1 決勝 ST-X 正式結果表

2025.07.06		SUGO INTERNATIONAL RACING COURSE (3.5865km)	天候:晴れ		コース状況:ドライ				START:12:38:06		
Pos	No.	Team	A Driver		B Driver		C Driver		D Driver	Lap	Total Time
		Type	Best Time	Lap	Best Time	Lap	Best Time	Lap	Best Time	Lap	Delay
1	777	D'station Vantage GT3 Aston Martin Vantage GT3 EVO	星野 敏 1'23.802 (58)	上村 俊太 1'23.053 (54)	藤井 誠輔 1'22.721 (54)					166	4h01'01.008
2	23	TKR1松永建設AMG GT3 Mercedes-AMG GT3	DAISUKE 1'24.126 (42)	片岡 龍也 1'22.885 (44)	奥本 隼士 1'23.483 (39)	中山 友貴 1'22.155 (41)				166	4h01'04.502 3.494
3	31	DENSO LEXUS RC F GT3 LEXUS RC F GT3	猪飼 龍太 1'23.577 (43)	蒲生 尚弥 1'22.387 (53)	小林 利輝斗 1'22.652 (52)	嵯峨 宏紀 1'22.909 (18)				166	4h01'06.909 5.901

----- 以上完走 -----

参加台数:3台 出走台数:3台 完走台数:3台

完走周回数 116周

Fastest Lap: 23 TKR1松永建設AMG GT3 1'22.155 50/166 157.159km/h

FCY導入:①13:56:49(56Laps)~13:59:39(57Laps)②16:21:41(156Laps)~16:25:04(156Laps)

計時委員長

大会競技長

審査委員長

石田 雅

長谷川 雄

水野 雅男

